

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	総合医療医学特別演習 I		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～2年次
必修・選択の別	選択	単位	2単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(精神医学) 生物学的精神医学 (放射線医学) 画像下治療 (IVR) (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学, 運動療法, 理学療法, 作業療法, 言語聴覚療法 (救急・集中治療医学) BLS, ACLS, JPTEC, JATEC (麻酔科学) 周術期 (総合診療学) 地域医療、在宅医療 (総合医療学) 全人的医療 (緩和医療学) 緩和医療		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	(精神医学) 教授 紀本創兵、講師 山田信一 (放射線医学) 教授 園村哲郎、准教授 南口博紀、准教授 生駒 顕 (リハビリテーション医学) 准教授 幸田 剣 (救急・集中治療医学) 教授 井上茂亮、准教授 上田健太郎、准教授 田村志宣、 講師 米満尚史、講師 宮本恭兵 (麻酔科学) 教授 川股知之、准教授 時永泰行 (総合診療学) <u>教授 廣西昌也</u> (総合医療学) 教授 村田顕也、准教授 谷本貴志、講師 佐々木洋子 (緩和医療学) 教授 川股知之、准教授 月山 淑、講師 栗山俊之	
	薬		
授業の概要	精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において講義及び演習を行う。本演習では、内科・外科にとられない総合医療医学の各分野における主要テーマについて文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また各分野における基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。		
到達目標	(精神医学) 精神疾患の病態基盤について、神経科学的な側面から理解し、研究に必要な素養を高める。 (放射線医学) 主要なIVRの利点や欠点について理解する。 (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学に関する研究を遂行できる能力を身につける。 (救急・集中治療医学) 救急医療の基礎知識を理解し、職種に応じた救急傷病者・患者への初期対応ができる。 (麻酔科学) 周術期医療に関する論文を理解できる。 (総合診療学) 在宅医療など地域医療現場における問題抽出と研究法を修得する。 (総合医療学) 総合医療の根幹をなす全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能を修得する。 (緩和医療学) 緩和医療に関する論文を理解できる。		

授業計画	<p>(精神医学) 精神疾患の生物学的研究の最近の動向 (紀本創兵) 老年期に認める精神疾患の生物学的理解と、研究介入の手法 (山田信一) 主要な精神疾患の最新の臨床・基礎研究の論文について、各大学院生に批判的評価を課すとともに、教官の指導の下に相互で討議を行う。(紀本創兵/山田信一)</p> <p>(放射線医学) IVRについての論文を読み、討議する。(園村哲郎/南口博紀/生駒 顕)</p> <p>(リハビリテーション医学) リハビリテーション医学に係る概説的な講義を行う。(幸田 剣)</p> <p>(救急・集中治療医学) 心肺蘇生法の理論と実際及びその普及システムについて理解し考察を深める。ショックを含む重症病態についての理解と考察を深める。重症外傷傷病者・患者に対する診療ガイドラインを理解する。(井上茂亮/上田健太郎/田村志宣/米満尚史/宮本恭兵)</p> <p>(麻酔科学) 周術期医療について文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、基礎・臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。(川股知之/時永泰行)</p> <p>(総合診療学) 地域医療・家庭医療における研究手法：在宅医療など地域医療現場における問題抽出と研究法について学ぶ。(廣西昌也)</p> <p>(総合医療学) 神経系・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能に関する講義を行う。 神経系疾患に関する内容について講義する。(村田顕也) 循環器系疾患に関する内容について講義する。(谷本貴志) 医療社会学に関する内容について講義する。(佐々木洋子) (村田顕也/谷本貴志/佐々木洋子)</p> <p>(緩和医療学) 緩和医療について文献を読み、教員と議論することにより知識を深める。また、臨床研究の手法について学び、研究技能の向上を目指すとともに、臨床知識・技術を修得する。 (川股知之/月山 淑/栗山俊之)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (討議内容、ディスカッションへの参加姿勢、研究技能の修得状況、発表内容など) によりS (90点以上)、A (80~89点)、B (70~79点)、C (60~69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書

(精神医学)

【参考書】「カンデル神経科学」 監修：宮下保司
出版社：メディカルサイエンスインターナショナル

(放射線医学) 特に指定しない。

(リハビリテーション医学)

【教科書】「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」
監修：一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会
出版社：医学書院
【参考書】「総合力がつくリハビリテーション医学・医療テキスト」
総編集：久保 俊一、田島 文博
出版社：日本リハビリテーション医学教育推進機構

(救急・集中治療医学)

【参考書】「JRC蘇生ガイドライン2020.」 監修：日本蘇生協議会
出版社：医学書院
「外傷初期診療ガイドラインJATEC 改訂第6版」
著者：日本外傷学会他 出版社：へるす出版

(麻酔科学) 特に指定しない。

(総合診療学)

【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する。
【参考書】「新総合診療医学 診療所総合診療医編第3版」 著者：藤沼康樹
出版社：カイ書林

(総合医療学)

【参考書】「老年医学系統講義テキスト」 編集：日本老年医学会
出版社：西村書店

(緩和医療学) 特に指定しない。